vol.561

mj "高は高才、低は低量、情報はマック"
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆ 2020年2月26日発行ラインナップ
・菱肥会ブロック交流研修会
・第18回トモエときわ研修会

菱肥会ブロック交流研修会開催 in 沖縄

去る2月12日～14日、全国より菱肥会会員24名、賛助会員8名、弊社8名の計40名が沖縄に集い、菱肥会ブロック交流研修会が盛大に開催された。九州菱肥会が幹事を務めた今回のブロック交流研修会は天候にも恵まれ沖縄の気温は25℃と背広を着ていると汗ばむ程となった。北海道では直近の最低気温が－30℃よりも下回った場所もあったそうで、北海道からの参加会員にとっては寒暖差約60℃を体験することになった。

初日は宿泊ホテルにて開会式を行った。まず始めに九州菱肥会の宮原理事長よりご挨拶賜り、次いで弊社社長の上西、中部・西部菱肥会会長である三菱商事㈱関西支社の岡部理事副支社長より挨拶を頂いた。また、参加頂いた会員の皆様より近況報告も含めて自己紹介が行われた。初日の閉式後は、地元の琉球料理と三線を堪能し会員相互の交流を深めることができた。2日目はホテルにて、沖縄県商工労働部アジア経済戦略課の木村副参事より『沖縄のアジア経済戦略』という題目で講演が行われた。昨今の日本では人口増のピークを過ぎ毎年44万人もの人口が減少していると言われている。開催地の那覇市の人口は約31万人である。毎年ざっと那覇市人口の1.5倍もの人口が減少している計算となる。仮に国民1人当たりの年間消費額を120万円とした場合、44万人だと5,280億円が消失してしまう。人口減に伴う国家の経済損失をカバーするべく新たな市場（収入）のひとつとして、海外や観光客をターゲットとして展開していく必要があると説明された。人口増加率や国民の平均年齢が比較的若く消費力があるという観点で見た場合、東南アジア地域が有力な候補先となるという。沖縄を訪れる外国人観光客は年間約300万人いるが、外国人観光客に何が売れるのかというリサーチと、沖縄を物流拠点のハブとした海外展開の模索、県外や海外の企業が沖縄をどのように活用することが出来るのかといった目線で考えているとの説明がなされ、大変参考となる講演であった。講演後はバスにて、世界遺産である史跡今帰仁城跡、美ら海水族館を視察した。車内ではバスガイドより沖縄の説明を受けながら地元ならではの歌を三線の音色とともに奏でていただきまた、車窓よりさとうきび畑など沖縄ならではの風景も楽しむことが出来た。会員からは首里城火災のニュースが飛び込んできた時には県民と同様に大変こころを痛めたが、実際に焼損した建物を目の当たりにした時に惨状の酷さに思わず息を呑んだというコメントがあった。沖縄県民の誇りである首里城の復元並びに復興を祈るばかりだ。今回のブロック交流研修会は、参加会員皆様のご協力によって素晴らしい研鑽と交流をはかることができた。

春の当用期を控えご多用の中ご参集賜りました会員各社の皆様には厚く御礼申し上げます。菱肥会ブロック交流研修会事務局（福岡支店）

第18回トモエときわ研修会開催 in 札幌

去る2月19日～20日、ホテルライフォート札幌に於いて第18回トモエときわ研修会が開催された。新型コロナウイルスの影響もあり、中止も検討したが、急遽一部予定を変更し、マスク・除菌対応など配慮を行いながらの開催であった。トモエときわ研修会は2004年に第1回が開催されて以来、北海道トモエ肥料販売協同組合（以下北肥協）のメンバーが一同に会し、一年間のメンバー各社の販売・試験活動の発表・質疑応答の場となっている。本会の特徴として、メンバー各社の若手が研修会準備委員となり企画、立案、運営、座長等が進められ、事務局はあくまでもサポート役として研修会を作り上げる。各社準備委員は、研修会準備委員会を実施し、事前準備を行うことにより北肥協の一体感が生まれている。今回はメンバー各社総勢35名が参加し、2日間に渡り発表と議論が行われた。第18回の特徴は試験成果報告の中に成功事例とは別に、失敗事例も盛り込んだ。またグループ討議として土壌分析講座を行った。各社の近い年代の社員をグループにして大いに討論をしてグループごと施肥設計例を発表した。

1日目は、エムシー・ファーティコム（株）石黒社長のご挨拶により開幕、次いで弊社社長の上西より挨拶があった。試験成果報告では、馬鈴薯について新規拡販の取り組みを、ビートについては直播栽培と慣行栽培との比較試験、水稲については密苗栽培での比較試験結果を、また、失敗事例の試験結果も報告された。各試験ともトモエ化成による優位性が確認でき、今後の販売に活用できる試験内容であった。失敗例については、今後の課題として取り組んでいく方針だ。販売に繋げるべく工夫した施策や心構えが惜しげもなく発表され、参加者にとっては今後の販売活動のヒントになったものと思われる。その後のグループ討議では北肥協全体の活動である「ときわ拡販活動（ときわ拡販委員会）」について発表があった。ときわ化研の渡辺社長、北肥協拡販流通部会の照井社長（（株）愛農代表取締役社長）よりときわの販売目標が発表され、1日目を閉会した。

2日目は、弊社輸入原料部課長代理の周より中国の原料情勢を分かりやすく説明があった。続いて中央農業試験場の農業環境部環境保全グループの中村研究主幹よりスマート農業、水稲の密苗、小麦の播種量についてご講演を頂いた。基本的な事から最新の情勢まで幅広い内容であった。またトモエ化成100周年記念講演として、エムシー・ファーティコム（株）つくば開発センターの佐野センター長より講演を頂いた。

今回も様々な観点から拡販へ向けてメンバー各社の意気込みが伝わってくる研修会であった。紙面をお借りしまして、本会の準備にご協力を頂きました各社の皆様、そして準備委員会の皆様に御礼申し上げます。（札幌支店）

時差出勤開始のお知らせ

新型コロナウィルス（COVID-19）感染拡大防止の為、
弊社では全拠点に於いて時差出勤を開始致しました。

早出勤務　8：00～16：15
通常勤務　9：00～17：15
遅出勤務　10：00～18：15

勤務時間については各担当者までお問合せ下さい。
皆さまのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

様々なイベント等の中止・延期が多くなり、経済活動にも大きな影響を及ぼし始めました。私達に今できる事は予防・拡散防止に努めることです。繁忙期を迎える中、時差出勤にてご迷惑をおかけ致しますが、何卒ご理解賜り度宜しくお願い申し上げます。

編集事務局：南部、助川
電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp　URL http://www.mcagri.jp